

3年生自転車交通安全教室

10月25日、久米小学校の運動場にて、3年生を対象とした自転車交通安全教室が行われました。

交通安全指導員として、以下の方々が指導してくださいました。

- JAF 職員様
- 松山南交通安全協会(あんきょう)職員の皆様
- 松山交通安全協会連合会 交通指導員の皆様
- 松山市交通指導員 久米地区の皆様
- 松山市都市・交通計画課職員様



さらに、指導サポートのために、平日であるにも関わらず、PTA 社会教育部のメンバーをはじめとする多数の保護者の皆様もお集まりくださいました。

はじめに、指導員さんの実演で、正しいヘルメットの着け方や正しい自転車の乗り方・降り方・発進のしかた、右左折時および停車時の合図(法定手信号)の出し方を教えていただきました。

指導員さんの「道路交通法で、自転車も右折・左折・停止時は合図が必要、と定められている」という説明に、子どもたちは非常に驚いた様子でした。





次いで紙芝居で、正しい交差点の進行方法や、事故の多いシーン(左折時に左折車に巻き込まれる等)、自転車保険などについて教えていただきました。

いよいよ、実際に自転車に乗って実践です。



模擬コース上の、横断歩道や踏切、信号のない交差点、信号のある交差点といった各ポイントに指導員さんや保護者の方が付き、停車や右折の合図、後方確認などを促す声掛けを行いました。

子どもたちは、合図を出そうと右手をハンドルから離すたびにぐらついてしまい、「もしこれが本当の道路だったら…」とドキリとした様子でした。

自分の自転車がな、あるいは自転車に乗ることに不安がある子どもたちは、自転車に乗ったつもりで模擬コース上を歩いて、合図を出したり後方確認をしたりしました。



JAF 職員さんからは、反射材効果体験と、事故の衝突体験車(シートベルトコンビンサー)による衝突体験の指導をしていただきました。

◇ 反射材効果体験



この箱の中には、たくさんのステッカーが貼られたプレートと反射たすき、2つの帽子が入っています。



しかし箱に付いたスコープから中を覗くと、帽子が1つしか見えません。

子どもたちは反射材の視認性の高さ、身に着けることの有効性を実感できたようでした。



◇ シートベルトコンビンサーによる衝突体験



時速5キロで走行する車が障害物にぶつかったときの衝撃を体験しました。

時速5キロという、大人が歩く程度のゆっくりした速度でも、衝突時には体がガクンと前にのめり、思わず悲鳴が上がりました。

「遊園地のアトラクションみたいで面白い」と言う

子どももいましたが、JAF職員さんに「実際に事故が起きるときは、もっとスピードが出ていることがほとんどだから、衝撃はこんなものではない」と説明されると、交通事故の恐ろしさを実感したようでした。

自転車交通安全教室の最後に、JAF職員さんからは、シートベルトを正しい位置に着用することの重要性、そのために身長150センチ未満の子どもはチャイルドシート・ジュニアシートを使用することの必要性を教えてくださいました。

※広報部注：2024年9月より、チャイルドシート・ジュニアシートの使用推奨身長が140センチ未満から150センチ未満に引き上げられています。

また、松山南交通安全協会の会長さんからは、ヘルメットの着用、自転車の練習が交通安全につながることを教えていただきました。そして何より重要なのは、飛び出さないこと、とも教えていただきました。

自転車の交通安全指導にご協力くださった保護者の皆様、指導員の皆様、有り難うございました。